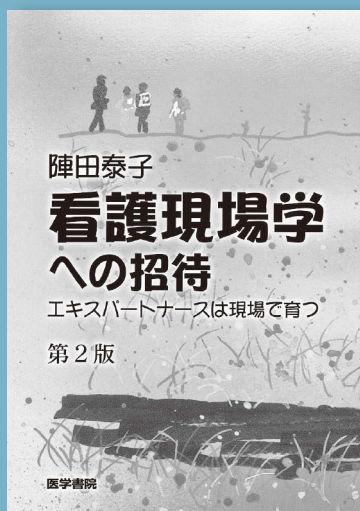


書評

看護現場学への招待 エキスパートナースは現場で育つ 第2版



- 著 陣田 泰子
- 定価 本体 2200 円 + 税
- 判型 B 6
- 頁数 240
- 発行 医学書院

評者

情報工房 代表
千葉大学大学院看護学研究科 特命教授
山浦晴男

「帰納的アプローチ」を通して、看護経験を概念化し、実践した看護の証を残す

著者・陣田泰子氏と評者の出会いは、2010年にさかのぼる。文部科学省主催・千葉大学実施の「国公立大学病院副看護部長研修」(現在も継続)を受講した聖マリアンナ医科大学病院の副看護部長が、評者が担当した講義・演習の内容を陣田氏(執行役員・統括看護部長・ナースサポートセンター長=当時)に報告したことに始まる。

それを契機に、本書『看護現場学への招待』が提唱する「看護の概念化シート」を用いた研修の成果発表会の場にお誘いを受け、臨床現場の看護師が自らの体験をもとに概念化した看護観を生き生きと語る姿を目にした。その後の実践を加味して出版されたのが今回の第2版である。

氏の看護観・看護哲学を示す

本書の内容は、陣田氏が「現場で起きていることから学ぶ『帰納的アプローチ』を通して、看護経験を概念化し実践した看護の証を残すこと(それには言語化が必要)」 「看護の実践とはそこまでをやってはじめて『看護実践』と言えるものではないか。それは私自身の『経験のしっばなし』から辿りついた看護現場での学びであり、学び方の方法であった」とする臨床現場での学びの方法と、組織マネジメント、著者の看護観・看護哲学である。

生き生きと働き学習する職場運営論

本書のすばらしいところは、個人(個々の看護師)、集団(看護チーム)、組織(看護部および多職種連携)の各階層の学習とナレッジ・マネジメントとともに、それらを有機的に連動させる経営マネジメントに向けて、実践に裏付けられた人材育成とその運用法が示されている

ことにある。

対比するなら、産業界の高度成長を支えた小集団活動(QC: Quality Control, 品質管理活動)、さらには企業組織全体の経営マネジメント(TQC: Total Quality Control, 全社品質管理)に匹敵する組織の活性化システムであり、それを医療・看護・介護分野で確立している。国の政策で医療が施設間競争の時代を迎える中で、看護本来の患者を第一に考える、看護師が自らの看護観に基づいて生き生きと働き学習する組織運営論として評価できる。

質的統合法と軌を一にする

評者は、看護学研究分野の質的研究の方法論として、KJ法に準拠した「質的統合法(KJ法)」を体系化し、大学院生や大学の研究者の質的研究の支援をしている。

これは患者や家族、看護師、あるいは看護学生の語りのデータをもとに、探求テーマの実態の論理を浮上させる方法であり、陣田氏が提唱する「帰納的アプローチ」による看護経験の概念化と軌を一にする。概念化された看護理念、看護の信念、看護理論をもとに、実践・検証する。この看護のサイクルを繰り返すことで、エキスパートナースは現場で育つと提唱する陣田氏の見解に賛同する。

評者は、陣田氏が長年籍を置いた聖マリアンナ医科大学病院看護部の「問題解決学習」の研修を10年間にわたって支援している。本書が提唱する「看護現場学」の成果で育った看護師の個々の力とともに、組織力の高さを体感している。

看護現場のマネジメントに携わる看護部長や看護師長・主任、そして看護管理学の研究者にお勧めしたい、実践と理論、理念の書である。